

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 青野 修一 玉川大学工学部ソフトウェアサイエンス学科 准教授

研究要旨

慢性疼痛患者の登録システム（慢性疼痛患者レジストリ）の構築及び管理運営を行った。慢性疼痛患者レジストリ分科会において登録内容・システムの改変に向けた検討を行い、登録サイトの改変を行った。また、痛みセンター共通問診システムについてクラウドベースでより管理しやすいシステムへ改変し、実証テストを行った。

A. 研究目的

慢性疼痛患者に対する集学的医療体制を多施設で構築していくためには、多種多様な慢性疼痛患者の情報を共通のフォーマットで収集するシステムが必要であり、これまでに研究班で、タブレットを用いて来院時に問診を行う痛みセンター共通問診システムを開発しデータベース化を進めてきた。また、これまで得られたデータを元に、慢性疼痛患者の登録システム（慢性疼痛患者レジストリ）の登録条件を選定し、慢性疼痛患者レジストリシステムの運用を開始している。同時に、登録のための動画コンテンツを作成し、各施設からのフィードバックも得られてきている。

本研究では、慢性疼痛患者レジストリの運営管理及び改変に向けた検討を行う。特に、これまで登録された患者情報をもとに、登録項目の見直し検討を行う。

B. 研究方法

令和4年度の活動として次の6つの項目を進める。

- ① 昨年度までのレジストリのバージョンを「レジストリ Vol.1」として、レジストリの内容を整理発展させるために、現在までに収集されたレジストリ Vol.1 のデータ分析を行う。
- ② レジストリ Vol.1 の構造上の問題点や課題を抽出し、修正後のバージョンを「レジストリ Vol.2」として登録を推進する。
- ③ レジストリ Vol.2 に、レジストリ Vol.1 で導入された ICD-11 慢性疼痛分類に、

IASP の ICD-11 タスクフォース内でも現在検討が進められている「医療介入の国際分類 (International Classification of Health Interventions: ICHI)」のうち、慢性疼痛に関連する医療介入分類の追加が可能かどうかの検討を行う。

- ④ レジストリ Vol.2 と痛みセンター共通問診システムを連動させるにあたって、従来の痛みセンター共通問診システム (iPad 問診システム) の改良 (質問票の再検討等) を行う。
- ⑤ 今年度中に完成予定のレジストリ Vol.2 の普及啓発活動に向けて、(i) レジストリ入力マニュアルの作成、(ii) 掲載する模擬症例の検討、(iii) レジストリに入力する ICD-11 慢性疼痛分類のコーディング研修会開催の準備を行う。
- ⑥ 今年度中に完成予定のレジストリ Vol.2 の普及啓発活動に向けて、第52回日本慢性疼痛学会 (2023/3/10-11、福岡市) にて展示ブースを設営し広報活動を行う。

C. 研究結果

上記の項目に関して、以下の内容を実施した。

- ① 解析結果について、国際会議 IASP World Congress 2022 の Topical Workshop にて分科会として口演発表を行った。
- ② 月2回程度の web 会議を実施し、類似システムとして精神科レジストリ・筋ジス

トロフィーレジストリの調査を踏まえ、登録システム内容の見直し案を作成した。

- ③ ICHI の、疼痛に対する介入・治療のターゲット・アクション（行動）について登録項目として追加した。
- ④ クラウドベースの新問診システムに関しては、他施設（星総合病院等）での実証実験を行い、より良いシステムへとブラッシュアップを行った。また、質問紙の見直し案の作成を行った。新質問紙案としては、以下の項目を予定している。
新質問紙案：痛みの強さ(NRS)、疼痛障害指標(PDI-5-J: PDAS から変更)、生活の質(EQ-5D-5L)、破局的思考尺度(PCS)、自己効力感(PSEQ-4: ショートフォームに変更)、不安・抑うつ尺度(HADS)、不眠尺度(AIS-5: ショートフォームに変更)、孤独感尺度・社会的孤立(UCLA、LSNS)、神経障害性疼痛スクリーニング(DN4))
(ただし、旧質問セットについては、継続して取得できるように選択式とする)
- ⑤ K-S 要因ツールの心理社会的要因(S 要因)について、補足分類案を作成した。今後、ワーキンググループ・普及に関しては広報分科会に委託し進める。
- ⑥ 第 52 回日本慢性疼痛学会において、ブースを展示し、レジストリの普及に努めた。

D. 考察

本研究では、これまでの痛みセンター共通問診システムの情報を元に、慢性疼痛レジストリの構築及び運用を行った。今後は、慢性疼痛患者レジストリの登録数が増えることにより、介入方法や疼痛分類(ICD-11)の情報を含めて解析を行うことが可能となり、集学的痛み診療モデルの構築やガイドラインの作成に役立つレジストリシステムを目指して運営管理を進めていく。そのためにも、分科会において、各施設が登録しやすいようなシステムの改修及び、取得項目の再検討を進める必要がある。言葉の定義が共通認識の上で登録可能となるよう、ICD-11 や、器質的要因・精神心理的要因ツール(K-S 要因ツール)のマニュアル作成を広報分科会と協力しながら進め、研修機会を設ける取り組みを進めてい

く必要がある。

また、取得した患者レジストリ情報を広く分譲し、レジストリ情報を活用した研究が進められることが望まれる。そのためにも研究班の内外への周知・広報活動を進めることが課題である。

E. 結論

本研究では、これまでの痛みセンター連絡協議会所属機関の問診データの情報を元に慢性疼痛患者レジストリの開発及び運営管理を行った。これまでの登録情報についてまとめレジストリ項目の再検討を行った。また、痛みセンター共通問診システムをクラウドベースへと改修を行い、レジストリとの連携が行いやすいようにシステム改変を行った。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. Arai YC, Yamada K, Aono S, Orita S, Inage K. The survey of implementing the ICD-11 chronic pain classification in multidisciplinary pain centers of Japan. 2022 IASP World Congress on Pain. 2022. 9.19-23. Toronto, Canada.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし